



この冬はしっかりと寒く、子ども達の冷たい手に触ると静電気がびりびり！どんなに寒くても、外で遊びたい子ども達が愛おしいです。そしてここまでインフルエンザはほとんど皆無、風邪でお休みもとても少なかったので、嬉しい限りです。

発表会が無事終わり、今年も本当に素敵な作品ができました。予期せぬ事態も発表会の最中に起こっても、子ども達が自分の頭で考えて問題解決したり、友達をさりげなくフォローしたりすることを目にしました。そんな時に、幼稚園生活の経験で培われた子ども達の力を感じるのです。困っている友達は自然に助けられる、素敵なシーンを何度も見せてもらいました。

ひとつの劇を作り上げる、という共通のイメージと音楽で、どんな子も自分の思う通りに表現できるこの作品づくりはまさに世界にひとつだけのものです。

支援の必要なお子さんも一緒に、行ないました。発表会には出ない、とお決めになった保護者の方もいらっしゃると思います。それもひとつの表現として受け止めています。色んな表現方法を、認めていける世の中であって欲しいです。臼井幼稚園は、色んな子どもがいて、みんな違ってみんないい。かっこいい理念とか、「こういう子を育てます」とか、机上の理想は不要だと思っています。子ども達はみんな生きていて、煌々しい。粹にはめられないからこそ美しいのです。

アクティブラーニングと文科省が推進している学校教育は英会話もタブレットも取り入れてはいますが、本当に一人ひとりが得意なことを好きなように伸ばせる環境にあるのか？疑問を覚えずにはいられません。

幼稚園では年長の3学期頃に、個性がぐっと出てきます。私の感覚ですが、際立ってくるのが3学期、もっと早い子ももちろんいます。そうすると、もう卒園を迎えます。寂しくて晴れやかな旅立ちの日。この個性をどんどん伸ばして行って欲しいです。そのためには、親御さんのお子さんへの向き合い方が大変大切です。全面的に自分を受けて入れてくれる親御さんがいるからこそ、子どもは社会でもやっていけるのです。親御さんに信頼され、愛されているからこそ、先生を信頼できる子どもに育ちます。絶対に受容されている子どもは自己肯定感があり、生きていく力が自然に身につきます。

世の中が、お母さま方も働くことを求め、そうしなければ生活するのが難しいように政治が仕向けています。だから保育園を乱立しているのです。そこで抗うにはあまりに無力で、ただただ経済的につらくなるだ

け。。怒りでいっぱいですが、仕方ない。

それでもいい教育を、と臼井幼稚園を選んでくださった皆さまに、いつも感謝しています。これからも努力して参ります。

園長 志田裕美子

＜担任から今月のメッセージ＞

みんなのドキドキワクワクな豆まきでは、豆入れを作ったときから嬉しそうな子もいれば、不安そうな子も…

当日は怖がっている友達に

「守ってあげるから大丈夫！」

と勇気づけている頼もしい子もいました。いよいよ鬼の時間！

「鬼が来たらねみんなで「おにおにチーン」ってしよう！」

と、一休さんのセリフを真似して言うと話していたので、鬼が来た瞬間に知らせた時にはもう大変！

「ぎゃーー」

と叫び逃げ回り、私の後ろに何人も隠れていました。ですが、私の後ろにいても助けてはもらえず…気づいた時には私の後ろには誰もおらず、全員みさき先生に助けを求めています。泣いていた子どもたちからしたら、鬼が3匹に見えたことでしょう笑

泣いている子とは対照的に笑顔で鬼をやっつける子や「ねえお面外してみてよ。誰なの？」

と、鬼に話しかける子、ひたすら鬼のパンツを脱がそうとする子もいました。

しかし、子どもにとって最強アイテムの豆が無くなった途端、急に怖さを感じていましたが、豆を補充してあげるとまた元気を取り戻して戦い始めていて、この子達にとっては私は救世主に見えたことでしょう笑

鬼をやっつけ、片付けをしていたらまた鬼の出現。せっかく拾った粉々の豆をまた投げ、もう一度鬼を成敗！

子どもたちに一度廊下で待っていてもらい、その間に教室を急いで掃除していたら、また

「ぎゃーー」

の叫び声。3度目の鬼でしかも逃げ場がなく大パニックでしたが、最後には鬼のお面を外してもらい、園長
＜2ページへ続きます＞

先生と田中パパさんだとわかり安心できたかな？きっと3度も戦えば、自分の中のいろんな鬼も退治できたことでしょう。

今年の豆まきでは、幼稚園で No. 1 の大騒ぎクラスだったそうです。

発表会のご参観ありがとうございました。

発表会の前週になって、急に挿入歌やエンディングの歌詞がオリジナルになっていく子や、セリフがいろんなみんなで決めたところではない場所で各々が言うようになってしまい、本番も近いのにどうしたものかと、私もお手伝いの先生たちも不安を抱いていたのですが、本番までにはなんとか思い出したようです。

前日に子どもたちに、

「どんな風に一休さんをやったら、カッコいいかな考えてきてね」

と、宿題を出しました。当日子どもたちから

「セリフは大きな声！ポーズを決める！歌は大きな声！恥ずかしがらない！」

と、言っていました。いかがでしたでしょうか？

にじぐみさん、なかなか全員揃わず、一度も全員で劇をしたことがありません。お休みの間に進んでしまい、わからないところを周りの友だちが一生懸命教えてくれて、連れて行ってくれていて、そんな優しさや、チームワークを本番も発揮していたと思います。

子どもたちは

「カッコよくできたよ！大成功だよ！」

と、話していました。笑顔な子どもたちが満足ならそれだけで十分だな！と思った発表会でした。

このお手紙が出る頃には、年中さんも残り約 15 日というところでしょうか。毎日全力鬼ごっこできるよう頑張ります！

1 日だけでも全員が揃いますように！

伊東 恵理

